

### 谷崎潤一郎記念館の催し

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/FAX38-3244

#### 【ロビーギャラリー】 水波昇 万華鏡

■期間 8月5日～30日<月曜日休館> ■内容 鏡と光により映し出される美しい世界。見るたびに变化する、美しい「万華鏡」を展示  
■作家 みずなみ工作アトリエ主宰・水波昇氏 ■観覧料 300円

#### 【1日教室】 自分だけの万華鏡を作ろう

■日時 8月23日(日)午後1時30分～3時30分 ■会場 講義室 ■内容 万華鏡制作 ■講師 みずなみ工作アトリエ主宰・水波昇氏  
■対象 小学生以上 ■定員 20人 ■受講料 1,500円(教材費2,000円～2,500円別) ■申し込み 上記へ

#### 【文学館講座】 ポタニカルアートとミニアート

■日時 8月21日(金)午後1時～3時 ■会場 講義室 ■内容 色をつけたところから始め、ミニアートに仕上げる ■講師 DESSIN K主宰・北岡広子氏 ■定員 小学生以上16人 ■受講料 3,000円(教材費500円程度別) ■申し込み 上記へ

#### 【文学館講座】 品格ある女性のマナー教室

■日時 8月27日～12月17日(木)午後1時～2時30分<全5回・月1回> ■会場 講義室 ■内容 冠婚葬祭のマナー・生活に役立つ作法や美しい立ち居振る舞い・すてきなあいさつの仕方など ■講師 日本現代作法会副会長・寒川由美子氏 ■定員 16人 ■受講料 2,500円(教材費1,200円程度別) ■申し込み 上記へ

### 保育所の「体験保育」に参加しませんか

保育所の「体験保育(参加費1,000円)では、親子で保育所の子どもたちと一緒に遊んだり給食を食べたりしながら、集団生活を体験します。

保育所名	体験保育 <午前9時30分～11時40分>
精道保育所(精道町9-16) ☎32-0510/FAX34-4736	■日程 11月17日(火)・18日(水)・19日(木) ■対象 2歳児の親子・3組
打出保育所(宮川町4-10) ☎/FAX22-5725	■日程 10月20日(火)・21日(水)・22日(木) ■対象 1歳児の親子・2組
大東保育所(新浜町8-1) ☎/FAX22-0089	■日程 10月21日(水)・22日(木)・23日(金) ■対象 1～3歳児の親子・3組
新浜保育所(新浜町1-1) ☎/FAX32-0410	■日程 10月13日(火)・14日(水)・15日(木) ■対象 2～3歳児の親子・3組

※1歳児…平成19年4月2日～20年4月1日生まれ  
※2歳児…平成18年4月2日～19年4月1日生まれ  
※3歳児…平成17年4月2日～18年4月1日生まれ  
【申し込み方法】 参加希望のかたは、はがきかファクスに住所・保護者名・電話番号・児童名・児童の生年月日・兄弟姉妹の有無・アレルギーの有無を明記し、8月9日(日)消印有効までに、各保育所へ。応募多数の場合は、抽選。結果は、参加者にはのみがきで通知します。申し込みは、いずれか1カ所の保育所に限ります。

### 市役所の封筒に「有料広告」を募集

【掲載対象】 市税納税通知書郵送用封筒・約6万5千枚/1枠20万円～  
督促状・催告書郵送用封筒・約4万枚/1枠12万円～  
【応募方法】 申込書・完全版下原稿を、10月30日(金)までに下記へ詳しくは、市ホームページを参照してください。  
問い合わせ 課税課 ☎38-2015

### テレビ広報番組ガイド

番組名	放送時間
オープニング	8:30
芦屋の動き	12:00
芦屋市政キラトピックス	16:00
おしらせ	22:30
夏休み特集	※DVD
エンディング	VTR 貸出可

■「J」: COM特別番組のため、8月29日(土)の③の放送はありません。  
■アナログ放送は9chで、地上デジタル放送は11chでご覧ください。  
■番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ ケーブルネット神戸芦屋(J:COM)カスタマーセンター ☎0120-13-8160

### 「市民マナー条例」にご協力ください

問い合わせ 環境課 ☎38-2050

清潔で安全・快適な生活環境を守るため、市では、市民の皆さんと連携して各種の啓発活動に取り組んでいます。また、各自治会から推薦いただいた55人のかたを美化推進員さんとして委嘱、美化活動などに取り組んでいただいています。みんなでマナーを守り、「清潔・安全・快適な街」芦屋の実現にご協力ください。

#### ポイ捨て禁止

■次の行為はやめましょう！  
◎市内全域の公共の場所での歩行喫煙  
◎喫煙禁止区域(JR芦屋駅周辺)内での喫煙(違反者には、過料2,000円)  
◎たばこの吸い殻・空き缶等のポイ捨て  
◎犬の放し飼いや・ふんの放置  
◎落書き

### 清潔で安全・快適な生活環境を守るため「終日花火禁止」にご協力

7月1日から、市民の皆さんの「清潔で安全・快適な生活環境」を守るため、総合公園・潮芦屋緑地・潮芦屋ビーチおよび南緑地を花火禁止区域に指定し、この区域内では終日(24時間)花火を禁止しています。

また、市内全域の海岸・河川・公園などの公共の場所での夜間(午後9時から翌朝午前6時)花火を禁止しています。

■禁止する花火は、次のがん具花火です  
ピンホイール・ヨーヨーなどの回転花火  
金魚・花車などの走行花火  
笛口ケツト・流星などの飛ばし花火  
乱玉・パラシュートなどの打ち上げ花火  
スモーククラッカー・爆竹などの音花火  
線香花火・へび玉などは、禁止対象外です。

■マナーを守り、「清潔・安全・快適な街 芦屋」の実現に、ご協力ください。



### 花火遊びは、迷惑にならない場所と時間と後始末

ルールを守って楽しい花火  
花火に書いてある遊び方をよく読んで、必ず守りましょう。風の強いときは、花火遊びはやめましょう。花火を人や家に向けてたり、燃えやすいもののある場所で遊んだりしないようにしましょう。必ず水を用意しましょう。花火のごみは、必ず持ち帰ります。市内全域の公共の場所等では、午後9時から翌朝午前6時まで、また、潮芦屋ビーチ、総合公園、潮芦屋緑地、南緑地は終日(24時間)ロケット花火、打ち上げ花火、大きな音のする花火等は、禁止しています。ご注意ください。

問い合わせ 消防本部 予防課 ☎38-2098

### 平和の鐘を鳴らそう！

「平和への祈りと願い」を込めて平和の鐘を、高らかに鳴らしましょう。奮って、ご参加ください。

■日時 8月15日(土)正午～午後1時  
■会場 市民センター本館・玄關横の「優愛の鐘」に集合  
■内容 午前11時45分～午後0時15分迄、市民センター玄關横の築山で「優愛の鐘」を鳴らします。その後、軽食付のイベントを開催  
■参加方法 直接会場へ

問い合わせ 芦屋ユネスコ協会事務局 ☎38-2091(生涯学習課内)

### 平和と人権

#### 《プロフィール》

宝塚・アフガニスタン友好協会代表  
西垣 敬子氏

1935年(昭和10年)台湾生まれ。平成6(1994)年1月、宝塚・アフガニスタン友好協会設立。同年4月に、「アフガニスタン展」開催。以後、支援活動に、15年間従事している。宝塚市在住。



### 15年目の支援活動 アフガニスタンの女性・子どもたちの現状

問い合わせ 人権推進担当 ☎38-2055

西垣敬子さんは、アフガニスタンから旧ソ連軍が撤退後、内戦による混乱で赤ん坊のミルクも薬もないというニュースに接し、宝塚や広島で集まった募金を持って、1994年11月に初めて内戦下の国内避難民キャンプを訪問。今年も5月に同国を訪問し、帰国後も写真展や報告会を精力的に開催されている。今回は、西垣さんに、女性の視点からの「アフガニスタン支援」の現状を紹介していただきます。



「赤ちゃんにミルクを」  
募金を持ってアフガンへ

今、振り返ってみると、アフガニスタンという国の現代史の「ページ」を、身をもって体験したと言えるかもしれない。

一九八九年に、旧ソ連軍が撤退。九二年、共産政権崩壊。しばらくは平和だったが、内戦に突入。九四年一月、首都のカブールは戦場と化し、毎日数千人が東部の町ジャラバードに押し寄せ、避難民キャンプでは、赤ん坊のミルクもない、薬もないというニュースが入ってきた。

そこで、宝塚や広島で「赤ちゃんにミルクを」というキャンペーンをしたら、四十万(四十万円)が集まり、その募金を持って、初めてアフガニスタンに入った。

パキスタンのイスラマバードから十人乗りの国連機に乗った。着いたのは、小学校の校庭のようなジャラバード空港。そこから、車で四分の土壌土の原っぱに、車で四十分のキャンプがあった。UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)が用意した国内避難民用キャンプでは、か地平線までテントが続き、二百人以上の人々が暮らしていた。

ミルク代を死し出すと、赤ん坊は夏にみんな死んだ。ミルク代はもう要らない」と言われた。突然として立ちすくんだ。四十五度を超す暑さに耐えられず、死んでいった。つづいて来るのが遅かったと自分の無力さに言葉もなかった。

一九九五年十一月、再びアフガンに入った。今度はパキスタンの北西辺境州の州都ヘシャワルからカイバール峠を通って陸路で国境を越え、アレキサンダー大王モナムールも通った峠道である。途中パキスタン政府も手が出せない部族地域を通る。警官が銃を持って、外国人である私を国境まで護衛する。部族地域の中は、一種の無法地帯で、銃を売る店が並び、町の外には銃砲のある高い土壁に囲まれた大きな家があって「麻薬王の家」と言われた。

パキスタンにはアフガン難民キャンプがいくつあって、多い所に三百五十万人の難民が、三つの州に暮らしていた。ヘシャワルの町はアフガン難民でいっぱいだった。

しかし、私は国境にいる難民ではなく、国内の避難民の暮ら、孤児を支援することに決めた。

それは、あのキャンプでアフガン女性や子どもたちの置かれた状況を女性活動の拠点、ジャラバードのみ、定点観測を決めた。

キャンプでは、「洋裁教室」を立ち上げた。手回しミシン三十台を、ヘシャワルで買って、持ち込んだ。テントには女たちが続々と集まってきた。抽選で選んだ未亡人三十人、指導者五人。プルカをまとって、女たちがやって来た。昨日まで、カブールで普通の生活をしてきた彼女たちにとって、耐えられないものであったに違いない。そこにあるのは一面の土とほこりのみ。自由に外出出来ない女たちにとって、洋裁教室は笑い声もあつた。キャンプでは「洋裁教室」に続き、女性たちの希望を入れて、「刺繍教室」も開いた。

人はどこにいるのですか?と思わず聞く。テントの中に見えるように言われた。「ここはアフガニスタンだよ。イスラムの国では、女は一人の外に出られない」ということを初めて知った。ショックだった。ヴェールを被ってタマメの。何という国だろう。夫を戦争で失った。

アフガン人同士の間には相変わらず続き、やがて、タリバンの出現となる。一九九六年九月、タリバンのジャラバードを制した。二ヶ月後に入ったら、そこにはタリバンがいた。町中タリバン一色となり、男たちはひげを長く伸ばし始めた。宗教警察のタリバンが市場でひげの短い男を拘束し、牢に放り込んだ。むち打ちの公開処刑も行われた。ハシム大麻を切った罪は十七発、盗みの刑は手首切断、異性不純交遊は三十発、女性はブル

しかし、やがて女性の受難の日々が始まる。就学禁止と、就学の禁止の布告が出された。女は、女医と看護師以外の職を奪われ、小学校から大学まで、女子の学校はすべて閉鎖。歌も踊りも、テレビも禁止。サッカー場は、刑場となった。この間も、私はアフガンに通い続けた。多くの市民がタリバンを嫌って、パキスタンに流出。難民になれない人たちが、アフガン内に留まった。

そして、タリバンの目を盗んで、隠れ学校、が開かれるようになった。民衆で近所の少女たちを集めて、失業者の女性教師がボランティアで教えていた。私はそこへ呼ばれ、給料を払ってほしいと言われた。少女たちが小鳥のようにひしめき合っていて、私は二十二人の女性教師に、わずかではあるが給料を払い続けた。二〇〇一年九月十一日、同時多発テロ、それに続くアメリカの空爆でタリバン政権は崩壊した。

#### 軍事より「民生支援」を願う

平和が戻って八年、人々は、やっと手にした平和を二度と失いたくないと考えている。大学にも女子学生が戻り、今年首席で卒業する三人のうち一人は女性である。二年前この大学に、女子寮をプレゼントした。現在二十五人が寮に住む。三人が法学部で、イスラム法を学んでいる。女性の側に立つ裁判官が判事、または弁護士が育ちつつある。

パキスタンでは、今、サッカーが大人気。孤児たちや大学生のために、ユニフォームの寄贈を、帰国後、新聞でお願いしたら、芦屋サッカークラブから新品を二種類もいただいた。オバマ大統領によって、米軍の増派が決まった。しかし誤爆で市民が巻き添えとなるケースもあつた。反感感情から外国軍を狙う自爆テロが増えつつある。もうこの国に戦争はいらない。今、物価の値上がり、特に小麦粉の値上がり、人々の生活を直撃している。貧富の格差はますます広がり、電気水も少ない。軍事より民生支援を、願うばかりである。

た女性には、どうするのだろうか。配給の列にも加わることできないではないか。そして、彼らはこどもなげに、必ず男の子がいるから大丈夫。三歳でも五歳でも、母親の代わりに並ぶよ」と言った。

力を被ったまむち打たれ、泣き崩れていた。

しかし、治安は良くなった。武器狩りが行われ、強盗はなくなり、夜も歩けるようになった。それではムシャヒディーンと戦った聖戦士、崩れの強盗やレイプが横行していた。

これは本当の話である。病院に銃を持った男がやって来て、看護婦の一人を指し、「この娘が欲しい」と連れて行った。院長が私に話して、娘を持つ家庭の父親は、夜も眠ることができなかった。それが、タリバン時代になり、鍵も掛けない、夜も寝られないようになった。

### 市民コレクション クロード・ワイズバッシュ展

フランス人画家クロード・ワイズバッシュの作品を、紹介します。独創性あふれる芸術世界を、お楽しみください。

■会期 8月22日～9月27日<月曜日休館・祝日は翌日休館>  
■会場 第2展示室 ■観覧料金 一般300円、大高生200円、中学生以下無料 《同時開催:コレクション展2 もっと知りたい!》

【関連企画】 講演会「日本とフランスー遠くて近い文化」  
■日時 8月22日(土)午後2時～3時30分 ■会場 美術博物館ホール ■講師 パリ日本文化会館初代館長・磯村尚徳氏 ■定員 200人 ■参加費 2,000円(観覧料含む) ■申し込み 下記でチケットを販売

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432/FAX38-5434

### 第29回 芦屋市明るい選挙推進大会 講演会

#### 宮崎哲弥トークショー

この局面に 私たちは…

■日時 8月8日(土)午前10時30分～正午  
■会場 ルナ・ホール ■講師 評論家・宮崎哲弥氏 ■定員 先着600人(手話通訳・要約筆記あり) ■申し込み 直接会場へ  
【講師プロフィール】  
時事論・政治哲学・宗教学を主軸とした評論活動をテレビほかさまざまなメディアで行う。近著には、『1冊で1000冊読めるスーパーブックガイド』(新潮社)など。

宮崎 哲弥氏

問い合わせ 選挙管理委員会 ☎38-2100

### 第23回 芦屋市民絵画展

「市民絵画展」への出品作品を、次のとおり募集します。

■会期 9月9日～13日 ■会場 市民センター301・302室 ■対象 市内在住・在勤・在学の高専以上のかた ■作品 絵画一般(日本画・洋画)で自作、未発表作品。50号(116.7cm×90.9cm)以内。額装の上、丸もか平もも付けたもの(1人1点に限る) ■出品料 500円 ■出品方法 9月6日(日)午前10時～午後4時の間に、市民センター301室に搬入。受け付け時に、出品申込書に、住所・氏名・作品のタイトル等を記入し、出品料を納めてください ■賞 奨励賞(数点)に対し、賞状と賞品

問い合わせ 市民センター ☎31-4995